

## 【講演録】

# 留学生のための定性的方法論：事例研究の魅力

講師：畢 滔滔 氏（立正大学経営学部）

日時：2016年12月2日（金）14：20～16：30

場所：山口大学経済学部 第1会議室

（司会）ただ今から、「事例研究の魅力」と題して、立正大学経営学部の畢滔滔先生（写真1）からご講演いただきたいと思います。簡単に略歴をご紹介します。畢先生は、中国・北京市のご出身で、対外経済貿易大学を卒業後、日本に留学されました。一橋大学大学院商学研究科で博士の学位を取られ、長野の東京理科大学諏訪短期大学、敬愛大学を経て、現在は立正大学経営学部で教授をされています。

本日はケーススタディの方法論についてご講演いただきたいと思います。よろしくお願いします。

写真1 畢滔滔先生



（写真）編者撮影。

（畢） 皆さん、初めまして。立正大学経営学部の畢滔滔です。本日はこの研究会にご招待いただき、光栄に存じます。

山口大学の柳田先生から、「事例研究の魅力」という講演タイトルを頂きました。

私の主な研究テーマは、商店街の再活性化および先進国の地方都市の都市再生です。私は大学院時代から今日まで、日本やアメリカ・サンフランシスコ市の商店街の再活性化、さらに金融産業や情報通信機器産業の世界的中心都市であるサンフランシスコや、アメリカの地方都市であるオレゴン州ポートランドの都市再生について研究を進めてきました。これらの研究を進めるプロセスにおいて、多くの事例研究を行いました。

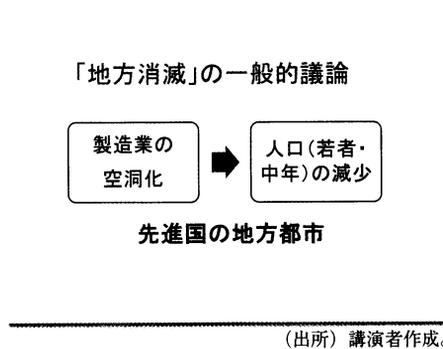
本日は、私の研究の経験を踏まえて、事例研究に関して三つのことについてお話ししたいと思います。初めに、事例研究とはどのような研究か、具体的にどのように行うのかという点についてご説明したいと思います（第1～4節）。次に、事例研究の魅力についてお話しします（第5節）。最後に、良い事例研究を行うためのポイントを指摘したいと思います（第6節）。

## 1. 事例研究を行う動機

まず事例研究とはどのような研究なのか、具体的にどのように行うのかについて、私自らの研究例を紹介することで説明したいと思います。そもそも事例研究を行うのは、修士論文を書かなければならないからではありません。あることを知りたい、明らかにしたいという問題意識こそが事例研究を行う動機となります。

私が知りたい、明らかにしたいことは、先進国の地方都市における人口減少の原因です。近年、日本では地方都市の問題が大きく取り上げられています。マスメディアの報道でも「地方消滅」という言葉がよく使われています。さまざまな立場の人が、さまざまな意味合いを持ってこの言葉を使っていますが、最も一般的に理解されているのは、先進国の地方都市の人口が減少し続けている現象を指しています。とりわけ若者や中年といった働く世代の人口が減少し続けていることが大きな問題として指摘されています。では、なぜ地方都市において若者や中年の人口が減少し続けているのでしょうか。その最大の要因は製造業の空洞化だといわれています。(図1)

図1 地方消滅の一般的な議論



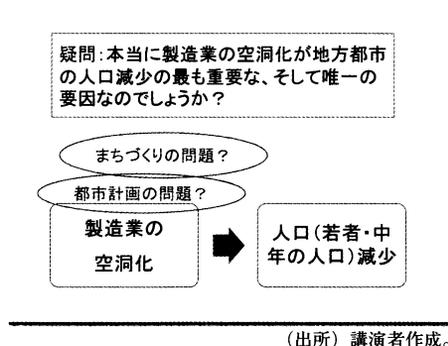
具体的に言うと、製造業の生産工程が、先進国から中国をはじめとする新興国に移転し続けています。結果として先進国内では、製造業に携わる仕事が減少し続けています。地方都市で製造業に携わっていた若者や中年が職を失い、こうした労働人口が仕事を求めて他の大都市に移転してしまうのです。

地方消滅の実態を具体的に見てみましょう。皆さんは今、山口大学にいます。例えば山口県最大の都市である下関市の当局は、本市の人口減少およびその原因について、このように述べています。下関市が発表した「下関市人口ビジョン」の抜粋ですが、「国勢調査によると、本市においては、1980年の32万5000人をピークに、一貫して人口減少が続いており、現在は1950年の水準にまで人口が落ち込んでいる。高齢化率も30%を超えている」と述べています。

その原因について、このように分析しています。「1980年代に入ると、(中略)造船不況の深刻化が続いたことから、次第に本市経済を支えていた基幹産業が停滞した。全国的な人口減少・少子高齢化の流れに加え、上記のような本市に特有の要因が加わった結果、全国よりも早い段階で人口減少に転じたものと考えられる」。下関市当局は、造船産業の衰退が人口減少をもたらした最大の要因だとしています。

ここで一つの疑問が生じます。本当に製造業の空洞化が、地方都市の人口減少の最も重要な、そして唯一の要因なのか。もしそうだとすると、製造業の生産工程を先進国に戻さない限り、地方都市の再生は不可能なものになってしまいます。他にもまちづくりや都市計画といったさまざまな要因が複雑に絡んでいる可能性はないでしょうか。この点こそ、私が見たい、明らかにしたいことです(図2)。

図2 一般的な議論に対する疑問



この問題を明らかにするために、私は地方都市に関する事例研究を行おうと考えました。具体的な地方都市の例を取り上げて、その都市の人口の変化に影響を及ぼす要素は何かという点について具体的に検討してみました。こうした作業こそが事例研究です。

## 2. 事例研究の対象を選ぶ

### (1) 研究対象を選ぶ方法

事例研究をするには当然、研究の対象を選ばなければなりません。私も事例研究の対象としてどの都市を取り上げたらいいかを考えました。研究の対象を選ぶ作業は、事例研究の非常に重要な第一歩です。

事例研究の対象都市を選ぶために、相当時間がかかりましたが、私は二つの作業を行いました。まず、日本および同じ先進国であるアメリカの地方都市の現状、そして地方都市の再活性化に関する研究書や論文を読みあさりしました。先行研究について刊行された研究書や発表された論文を、アマゾンや大学図書館のデータベースを使ってできる限り収集し、内容を読んで分析しました。もう一つは、日本およびアメリカの製造業や人口の状況に関する統計データを収集して分析しました。

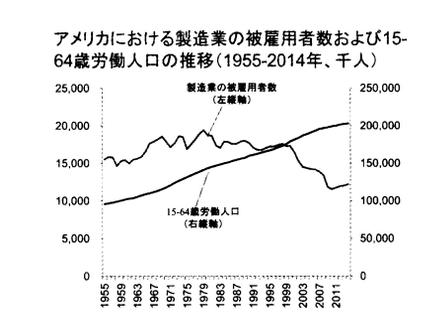
これら二つの作業を行った結果、私はアメリカの地方都市について分析しようと考えました。その理由は二つあります。一つは、アメリカは日本よりも早い時期から、より高い程度で製造業の海外移転が進んでいるからです。

## (2) 研究対象を選んだ理由

## ①アメリカ製造業の海外移転

この図は、1955～2014年のアメリカにおける製造業の被雇用者数および15～64歳の労働人口の推移を示しています(図3)。1950年代から一貫してアメリカの労働人口は増加し続けています。しかし、対照的に製造業の被雇用者数は1979年にピークを迎えた後、減少の一途をたどっています。特に2000年代に入ってから、減少率が非常に高いことが分かります。

図3 アメリカ製造業の被雇用者数および労働人口の推移



(出所) FRED, Federal Reserve Bank of St. Louis, *All Employees: Manufacturing*; FRED, Federal Reserve Bank of St. Louis, Working Age Population: Aged 15-64, *All Persons for the United States*により講演者作成。

今日におけるアメリカの製造業の現実について、カリフォルニア大学バークレー校の経済学者Morettiは、世界的ベストセラーとなっている『The Geography of New Jobs』という本において、ビビッドに書いています。彼は、iPhoneに関するストーリーを書きました。和訳は私によるものです。

アップル社のエンジニアたちは、カリフォルニア州クパチーノでiPhoneのコンセプトを考案し、それをデザイン化します。これはiPhoneの生産プロセスにおいて、完全にアメリカで実施される唯一の生産活動です。iPhoneの電子部品の生産は、主にシンガポールと台湾で行われています。生産の最終フェーズであるハードウェアの組み立てと発送は、最も労働集約的な作業です。つまり、最も労働者を雇う作業です。iPhoneの場合、これらの作業は中国・深圳郊外の工場で行われています。アメリカの消費者がオンラインストアでiPhoneを購入すると、商品はアメリカからではなく、深圳から届けられます。Morettiは、こうしたアメリカの製造業の海

外移転が今後も続くことを示唆しています。

## ②成長する地方都市の存在

では、アメリカの地方都市の現状はどうなっているのでしょうか。製造業の海外移転が進んだことにより、消滅してしまったわけではありません。アメリカの地方都市における人口の増減を調べてみると、むしろ人口が増加し続けている地方都市があることが分かりました。これは、私がアメリカの地方都市を事例研究の対象として取り上げようとした二つ目の理由です。

### (3) 成長する地方都市：オレゴン州ポートランド市

#### ①オレゴン州ポートランド市の位置づけ

このような地方都市の中でも代表的な都市があります。オレゴン州ポートランドです。ポートランドは地方都市ですから、あまり聞いたことがないと思うので、簡単に紹介します。まずポートランドの位置を確認しておきましょう（図4）。ニューヨーク、連邦政府の所在地であるワシントンD.C.、ボストンなどの大都市は東海岸にあります。ポートランドは西海岸の北部に位置します。

#### 図4 オレゴン州ポートランド市の位置

##### 事例研究の対象都市の選定： オレゴン州ポートランド市

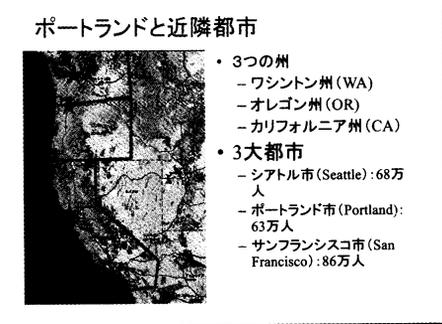


（出所）Google Mapデータから講演者作成。

アメリカの西海岸をもう少し詳しく見ましょう（図5）。西海岸には三つの州があります。一番北にはワシントン州があります。これはワシントンD.C.とは違うので誤解しないでください。ワシントン州最大の都市はシアトルです。そして、ワシントン州の南にオレゴン州があります。オレゴン州最大の都市がポートランドです。

オレゴン州の南にカリフォルニア州があります。カリフォルニア州には大都市が幾つもあります。北部にはサンフランシスコやサンノゼといったシリコンバレーの主要都市があります。南部にはロサンゼルスやサンディエゴなどの大都市があります。ポートランドに近い大都市は、シアトルやサンフランシスコです。ポートランドは、近隣都市と比べて産業の特徴が大きく異なります。

図5 アメリカ西海岸におけるポートランド市と近隣都市



(出所) Google Mapデータから講演者作成。

ポートランドは典型的な地方都市です。ポートランドの産業には、二つの特徴が見られます。一つは、大手企業の本社の数がとても少ないことです。これは地方都市の産業の特徴の一つです。例えば、2015年のアメリカの大手企業、Fortune500企業の本社の数を見ると、ポートランドはゼロでした。一方、シアトルには5社、サンフランシスコには6社ありました。皆さんが大好きなスターバックスや、私がよく使うアマゾンの本社はシアトルにあります。サンフランシスコには、アメリカ最大手の銀行ウェルズ・ファーゴの本社があります。

ポートランドの産業に見られるもう一つの特徴は、雇用が公的機関に依存していることです。言い換えると、被雇用者数に占める公務員の比率がものすごく高くなっています。これも地方都市の産業の特徴の一つです。

この表(表1)は、2015年のポートランド市における従業員数が多い七つの企業・団体のリストです。上位七つの企業・団体のうち、公的機関は四つを占めています。他の主要な雇用先も、主に病院に集中しています。

表1 ポートランド市における従業員数が多い企業・団体（上位7位，2015年）

企業・団体名	業種	全（ポートランド） 従業員数（人）
プロビデンス・ヘルス・アンド・サービス	病院	76,329 (16,139)
オレゴン保健科学大学	公立大学，病院	14,990 (14,963)
カイザー・パーマネンテ・ノースウエスト	病院	174,415 (11,898)
レガシー・ヘルス・システム	病院	8,700 ( 8,700)
ポートランド公立学校	公立学校	6,135 ( 6,135)
マルトノマ郡庁	地方政府機関	5,995 ( 5,995)
ポートランド市役所	地方政府機関	5,481 ( 5,481)

（出所）Portland Business Journal (2015), *Book of Lists 2015-2016*より講演者作成。

このような産業の発展状況により，ポートランド市民の所得水準と近隣のシアトルやサンフランシスコ市民の所得水準との間に大きな隔たりが見られます。2010年代前半の世帯年収の中央値についてポートランド，シアトル，サンフランシスコを比較すると，ポートランドの世帯年収の中央値は日本円に換算すると559万円で，サンフランシスコの823万円やシアトルの670万円と比べて非常に低くなっています。

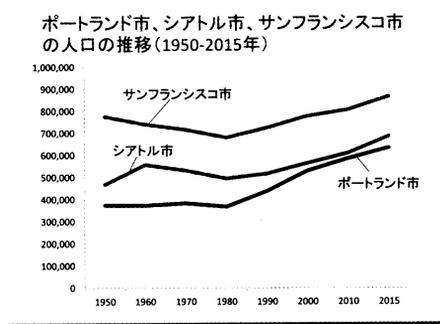
一方，生活コストの主要な指標である住宅価格についても，ポートランドは近隣の大都市よりはるかに安くなっています。2010年代前半の新築と中古を含む1戸建て住宅の市場価格の中央値を，ポートランド，シアトル，サンフランシスコで比較すると，ポートランドは3000万円で，サンフランシスコの7700万円，シアトルの4400万円と比べてはるかに低くなっています。

このように，今日のポートランドにおける産業発展の状況や市民の所得水準は，近隣のシアトルやサンフランシスコとの間でかなり差があります。金融産業やサービス産業の世界的中心都市であるサンフランシスコやシアトルと比べて，ポートランドは典型的な地方都市です。

## ②人口増加を続けるポートランド市

しかし，興味深いことに，地方都市であるポートランドから，シアトルやサンフランシスコや他の大都市に人口が流出し，地方消滅の危機に直面しているわけではありません。1950～2015年のポートランド，シアトル，サンフランシスコの人口の推移を見ると，1950年代からポートランドの人口は増加し続けています。その増加率は近隣のシアトルやサンフランシスコよりもやや高くなっています（図6）。

図6 3都市の人口の推移



(出所) U.S. Bureau of the Census, *Population of the 100 Largest Urban Places 1940-1990*; U.S. Census QuickFactsにより講演者作成。

ポートランドに住む女性の出生率が高いからではありません。ポートランドに住む女性の出生率は、全米平均とほぼ同じです。ポートランドの人口増加は、主に移住者の増加によるものです。確かにポートランドに移住する人の中には、定年でリタイアした高齢者もいます。ところが、非常に意外なことに、ポートランドに移住する人の多くはYoung, College-Educated (YCE) たちです。25~39歳の大卒以上の学歴を持つ人々が積極的にポートランドに移住しています。このような事実が、ポートランド州立大学の2人の経済学者、JurjevichとSchrockの研究によって明らかにされました。

さらにJurjevichとSchrockは2000年代、ポートランドにおけるYCEたちの就職の状況を調べました。その結果、非常に面白い事実を発見しました。2000年代、ポートランド都市圏のYCEの失業率は、全米50大都市圏の中で最も高い水準で、仕事がありませんでした。パートタイム労働者の比率は5人に1人で、全米で最も高い水準でした。さらに、10人に1人は自己雇用 (self-employment) でした。さらに、レストランのウェーターやウエートレスなど、大学教育を必要としない職業に従事する比率が非常に高く、ポートランド都市圏のYCEの平均所得は、50大都市圏平均の84%にとどまっていました。

このように雇用機会に必ずしも恵まれておらず、収入も低いはずのポートランドが、「地方消滅」と非常にかけ離れた状況にあります。私が明らかにしたい問題を考察する上で、ポートランドという都市こそ、格好の事例研究の対象になり得るはずだと判断しました。

### 3. 調査課題の明確化と調査の実施

#### (1) 問いの設定と調査活動

このように、オレゴン州のポートランド市を事例研究の対象として選んだ後、私は早速、ポートランドに関する調査を始めました。調査するに当たって、まず調査の課題を明確にし、二つの問いに絞りました。一つは、ポートランドの魅力は何か、もう一つは、ポートランドは何をして、どのように人々が住みたい町をつくりあげたのかという問いです。

これらの問題を明らかにするために、私はまずポートランドに関する書籍や論文を読みあさりしました。アマゾンドットコムで買ったポートランドに関する本は40冊を超えました。ポートランドの政治や経済に関する本もあれば、政治家の自伝や料理のレシピなどいろいろあります。まず書籍を収集して内容を読んで分析しました。

それと同時に行った二つ目の作業は、ポートランドでの現地調査でした。具体的には、町全体を自分の目で見て、市役所のまちづくり担当者やポートランド州立大学の研究者などにインタビューを行いました。さらに1940年代からポートランドで実施された膨大な量の公共事業の記録を、ポートランド市公文書・記録センターで収集し、内容を読んで分析しました。さらにカフェでランチを食べたり、パブでビールを1杯飲む際に、隣に座った人といろいろおしゃべりしてみました。どうしてポートランドに来たのか、ポートランドについてどう思うかなど、いろいろ話をしました。日本ではカフェやパブで知らない人に声を掛けたりすると怪しい人だと思われがちですが、サンフランシスコやポートランドでは大体喜んで話してくれます。このようなお国柄の違いも現地調査で非常によく分かりました。

最後に、収集したデータをどのように分析すべきかを考えるために、政治学や都市の経済発展、さらに都市計画学の分野に関連する理論研究を収集して読んでみました。これは三つ目の作業です。(図7)

### 図7 調査で行った作業

#### 行った作業

- A) ポートランド市に関する書籍、論文を読みあさる
- B) ポートランド市で現地調査を実施する
  - 町全体を自分の目で見る
  - 市役所のまちづくり担当者などにインタビューを行う
  - 公共事業の記録を、ポートランド市公文書・記録センターで収集する
  - カフェやパブで隣に座った人々と世間話をする
- C) 理論研究を読みあさる

(出所) 講演者作成。

#### (2) 調査から得られた3つの結論

##### ①クオリティ・オブ・ライフを求める人々

これら三つの作業を行った結果、私は研究課題について三つの結論を得ることができました。第一に、多くのYCEは、良い就職機会を求めてポートランドに移住しているわけではないということです。彼らは、高いクオリティ・オブ・ライフを求めてポートランドに移住したのです。ここでの良い生活環境、高いクオリティ・オブ・ライフとは、中国が求めるような世界一高いビルや、世界的に著名な建築家がデザインした建物や、規模が大きくて立派な国際会議場やスタジアムがあることを指しているわけではありません。便利な公共交通、より安い生活コスト、活気あふれる商店街、保護された自然環境、起業しやすい環境が非常に重要です。

ポートランドはRiver Cityと呼ばれています(図8)。ウィラメット川はポートランドの北から南へ流れ、ポートランドの町を東西に二分しています。ポートランドの都市の中心は西にあります。東には住宅街や中小企業の集積地があります。

図8 ポートランド市の地図

ポートランド: River City(ウイラメット川)



(出所) Google Mapデータから講演者作成。

ポートランドの中心のウイラメット川沿いにある公園の写真です(写真2)。地価が高い所です。ポートランドのダウンタウンには、広くて緑あふれる公園があります。ポートランドの人々はここで散歩したり、ジョギングしたり、友だちと会ったりして暮らしています。ダウンタウンの一等地に、これほど広く居心地のいい緑地があることは、日本や中国では珍しいと思います。

写真2 ウイラメット川沿いの公園

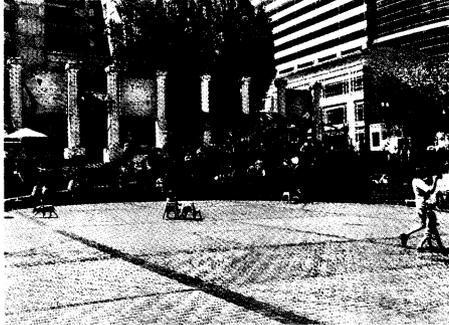


(撮影) 講演者。

ここはポートランドのダウンタウンの中心で、最も地価が高い所です。中国や日本の最も地価の高い所には大体、ショッピングモールや官庁の建物が建てられています。しかし、ポートランドの一等地には、パイオニア・スクエアという誰でもただで使える公共広場(パブリック・スクエア)が作られており、市民や観光客の憩

いの場となっています(写真3)。昼になると周辺のオフィスで働く人々が、ランチボックスを持ってきてここで食べています。天気の良い日には、椅子を持ってきて休む人の姿もよく見られます。

写真3 パイオニア・スクエア



(撮影) 講演者。

これは、東側にある中小企業の集積地です(写真4)。ここにある建物のほとんどが、築70~100年ぐらいの古い倉庫です。古い倉庫が取り壊されることなく現在も使われています。古い建物だからこそ家賃は安いです。現在、若者が起業に挑戦しやすい場所となっています。

写真4 セントラル・イースト工業地区



(撮影) 講演者。

一つの例を紹介します。あまりきれいではありませんが、この建物は築70年以上の倉庫です。この中には現在、二つのベンチャー企業が入っています。いずれも若

者が作った企業です。

一つは、竹製品をデザイン、製造する企業です。竹を使い、家具やスーツケースを作っています。驚いたのですが、全然重くありませんでした。さらにサーフィンボードなどをデザイン、製造しています。

もう一つの会社は、コーヒーを焙煎して小売りするカフェです。古い倉庫の天井がそのまま残されていて、非常に面白い空間となっています。このような特徴こそがポートランドの魅力です。多分、皆さんが考えている常識と随分違うのではないかと思います。

### ②クオリティ・オブ・ライフを高めるまちづくり

調査を通じて得られた二つ目の結論は、1970年代を境に、ポートランドのまちづくりの目標と手法が大きく変化し、この変化こそが今日のポートランドの高いクオリティ・オブ・ライフをつくりあげたということです。(前節の図6を参照)

今まで説明してきた場所が、1970年代初めにはどのような様子だったかをご説明しましょう。ダウンタウンのウェルメット川沿いの公園(写真2)は、1970年代初めは高速道路でした。そのため、当時ダウンタウンにいた人はウェルメット川に近づくことがとても難しかったのです。1970年代、ポートランド市当局は高速道路を完全に撤去して、公園を造りました。このようなことは、日本や中国では考えられません。

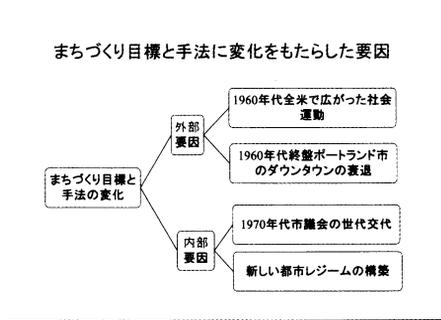
そして1970年代、パイオニア・スクエア(写真3)は駐車場でした。しかも、当時のポートランド都市圏において大気汚染が最もひどい場所でした。当然、この駐車場で休みたい人やランチを食べたい人がいるはずがありません。1970年代、ポートランド市はこの駐車場を買い取り、パイオニア・スクエアを造りました。

1970年代を境に、ポートランドのまちづくりの目標と手法が大きく変化したのです。このような変化により、今日のポートランドの非常に高いクオリティ・オブ・ライフがつくられました。

### ③ポートランドのまちづくりを変えた要因

そして調査を通じて得られた三つ目の結論は、1970年代、ポートランドにおいてまちづくりの目標と手法を変化できた理由には、外部要因と内部要因があったということです。(図9)

図9 まちづくりを変えた要因

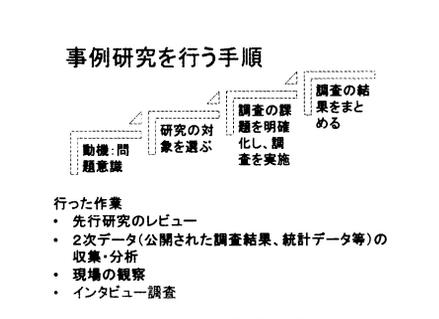


(出所) 講演者作成。

### (3) 事例研究を行う手順

事例研究はどういう研究なのか、どのように行うのかという具体的な手法やプロセスについて、私自身の研究例を紹介することで説明しました。まとめると、問題意識を明確にし、研究の対象を選び、調査の課題を明確化して調査を実施し、最後に調査の結果をまとめる手順で事例研究を行いました。そして、先行研究のレビュー、2次データである公開された調査結果や統計データ等の収集・分析、さらに現場の観察、そしてインタビュー調査といった作業を行いました(図10)。これらの作業のうち、皆さんはインタビュー調査に高い関心を持っているのではないかと思いますので、これについてももう少し具体的に説明します。

図10 事例研究の手順



(出所) 講演者作成。

#### 4. 事例研究とインタビューの関係

##### (1) 事例研究にインタビューは必要か

私は、学生から「事例研究をする際に、必ずインタビュー調査をしなければならないのか」という質問をよく受けます。まず、公開された調査結果報告書や統計データなどの2次データを徹底的に収集して分析してみてください。もし2次データの収集・分析で研究課題を明らかにできるなら、必ずしもインタビュー調査を実施する必要はないと思います。実際に2次データのみに基づく非常に優れた事例研究は数多くあります。

一つの例を挙げます。『決定の本質』は、私が大学院時代に指導教官に薦められて読んだ本で、キューバ・ミサイル危機に関する事例研究です。非常に優れた事例研究であり、この本は古典となっています。研究のアプローチについて、著者のアリソンは「はじめに」で、「本書で述べられているミサイル危機の三つの分析は全く公文書に基づくものである」と述べています。つまり、全く2次データに基づくものです。

この本以外にも、例えば『失敗の本質』という非常に優れた本があります。非常に面白い本で、何回も読みましたが本当にいい本です。大学の図書館には大体あります。興味があれば借りて読んでみてください。同じ研究のアプローチを取っています。繰り返しになりますが、まず2次データを徹底的に収集して分析してみてください。この作業を行った後、なお研究課題について明らかにすることができなければ、インタビュー調査を考えてください。

##### (2) インタビュー対象者の協力を得る方法

学生から「どのようにインタビューの協力を得るのか。効果的なインタビューを実施するコツは何か」という質問をよくされますが、私は徹底的に準備した上で、インタビューを実施します。準備とは、2次データを徹底的に収集・分析することを指します。

この文書は、私がインタビューに送ったインタビューの英文の依頼状ですが、和文の依頼状のポイントも同じです（図11）。まず、標準フォントで書かれた下線部分は、一般的説明事項です。私の名前、研究プロジェクトのタイトル、インタビューの予定時間、都合のいい日時はいつかという内容です。当然、一般的説明事項をインタビューに知らせなければなりません。

そして、一般的説明事項に加えて、インタビュー対象者に深く関係する内容（図11の下線部分の太字箇所）も必ず入れるようにしています。一つは、私が既に読んだ2次データに関する簡単な説明です。もう一つは、インタビューする際に聞く具体的な質問のリストです。

この内容を入れる理由は、一つはインタビューイの協力を得たいからです。インタビューイは仕事が忙しい人です。何も準備せずに取りあえず話を聞きに行くような態度でインタビューに臨んではいけないと思います。そのような態度や姿勢でインタビューを頼むと大体断られます。もう一つの理由は、効果的にインタビューを実施したいからです。そもそもなぜインタビューを実施するかというと、2次データの収集・分析で得られない情報を得たいからです。そう考えると、まず2次データをきちんと収集・分析しなければ、良い質問をすることはできません。従って、良い情報を得ることもできません。インタビューは手段であり、目的ではありません。

### 図11 インタビューの依頼文

インタビュー：徹底的に準備をした上で実施すること

My name is... I am conducting a research titled "..."  
The study is funded by the National Grants-in-Aid for Scientific Research. I read your dissertation "The Dynamics of Creating Strong Democracy in Portland, Oregon: 1974 to 2013." ... I would be most grateful if I could interview you for approximately one hour to ask five questions. I will be available in ... Thank you very much.

The five questions are as follows...

(出所) 講演者作成。

### (3) インタビューの事前準備・事後作業

インタビューについては具体的な質問があると思うので、想定される質問について、私の経験または意見を述べます。

インタビューに行くとき、私は名刺、ノート、筆記用具、録音機器を持っています。録音については、事前に「録音していいですか」とインタビューイの許可を得るようにしています。

アポを取るとき、私は大体、3週間ぐらい前にメールを送ります。アポを取るコ

ツの一つは、担当者に直接連絡することです。広報について聞きたいなら別ですが、広報課や受付に電話すると、アポが取れる確率は低くなります。2次データをきちんと収集・分析すると、担当部署が大体分かり、多くの場合、担当者が分かるようになります。だから、きちんと準備することは非常に重要です。

「インタビューへの手土産は何がいいか」という質問については、大学院生は学生ですので、特に手土産を用意しなくていいと思います。手土産を持っていかなければ失礼ではないかという心配は要らないと思います。きちんと準備せず、取りあえず話を聞きに行くような態度、さらにインタビューの結果をまとめない行為こそが、インタビューに対する最大の失礼だと思います。

「テープ起こしを帰宅後すぐにしなかったためにやる気がなくなり、研究が遅滞した経験があるか」という質問については、私はありません。このような行為こそがインタビューに対する最大の失礼だと思います。インタビューの結果をまとめた論文や研究書を必ずインタビュー全員に送っています。相手がアメリカ人の場合、英文のサマリーを付けて一緒に送っています。すると、向こうから感謝の手紙やメールが来ます。必ずフィードバックした方がいいと思います。(図12)

## 図12 インタビューの事前・事後で気をつけること

### Q&A

- Q:インタビューに行くときには、何を持参するのか  
 A:名刺、ノート、筆記用具、録音機器  
 Q:アポ取りの電話は何週間前までにはしておくべきか  
 A:メール、大体3週間前、担当者に直接連絡  
 Q:インタビューへの手土産は何がいいか  
 A:大学院生は手土産を用意しなくてよい  
 Q:テープ起こしは、帰宅後すぐにやらないと、やる気がなくなって、研究が遅滞した経験があるか  
 A:ない。このような行為こそが、インタビューに対する最大の失礼。必ずまとめた論文・研究書をインタビューに送る

(出所) 講演者作成。

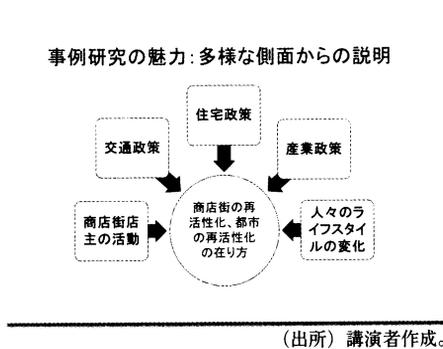
以上、事例研究を行う際の具体的な方法、プロセスについて、私自身の研究例を紹介することで説明しました。

### 5. 事例研究の魅力

事例研究の魅力は、ある現象について多様な側面から説明することができる点にあると思います。例えばまちづくりの場合、商店街のような非常に狭い範囲であっても、その変化は商店街店主の活動だけでなく、周辺の住宅街や道路、公共交通システム、地区の産業、人々のライフスタイルの変化からさまざまな影響を受けます。

商店街店主の活動だけでなく、都市の交通政策、住宅政策、産業政策、人々のライフスタイルの変化といった多様な側面から、商店街や都市の再活性化の在り方を検討することができる点こそ、事例研究の最大の魅力ではないかと思います。(図13)

図13 事例研究の魅力



そう考えると、良い事例研究と悪い事例研究の違いについて、おのずと答えが見えてきます。その違いは、事例研究の対象として取り上げられた都市や企業などを、どれだけ多様な側面から検討したかという点にあると思います。悪い事例研究、説得力のない事例研究とは、本来存在するはずの多様な要因を無視して、自分が興味を持った要因のみから因果関係を導こうとする研究を指すと思います。

### 6. 良い事例研究を行うポイント

最後に、良い事例研究を行うポイントを二つ挙げたいと思います(図14)。一つは、先ほど説明したように、代表的な事例を選ぶことです。もう一つは、事例研究の対

象について徹底的に調べることです。具体的には、先行研究をきちんとレビューすることです。2次データを徹底的に収集して分析することです。不可能な場合がありますが、必要かつ可能な場合は、自分の目で現場を見たり、関係者と話をしたりすることです。これらの作業を誠実に行うことで、必ず説得力のある結論を導くことができるはずで

#### 図14 良い事例研究を行うポイント

### 3. 良い事例研究を行うポイント

1. 代表的な事例を選ぶ
2. 事例研究の対象について、徹底的に調べる
  - A) 研究対象に関するすべての文献(研究書、論文)を読むこと
  - B) 関係するすべての文書資料、例えば、アーカイブ、新聞や雑誌記事を徹底的に収集して分析すること
  - C) 必要(かつ可能)な場合、自分の目で現場を見たり、関係者と話をしたりすること

(出所) 講演者作成。

私の話は以上です。ご清聴ありがとうございました。

#### 【謝辞】

本講演会は2016年度部局長裁量経費「大学院渡日前入試入学者に対する基礎教育拡充プロジェクト」の支援を受けて実施しました。記して感謝致します。

(編集：藤田 健)